

事業者ヒアリング調査結果について

第1 趣旨

- ・デマンド型乗合タクシー等の事業者へのヒアリング調査を実施し、「利用状況」・「全体事業費」・「運賃収入」・「運転手の確保見通し」・「事業改善アイデア」を確認する。

第2 調査対象

モード・対象	事業主体	調査項目
デマンド型乗合タクシー	あおい交通(株)	利用者数の推移、事業改善方策 等
路線バス	名鉄バス(株)	利用者数の推移、収支状況 運転手確保・減便廃止リスク見通し
タクシー	名鉄西部交通(株)	公共交通のあり方について

第3 調査結果（要約）

(1) デマンド型乗合タクシー事業者

○デマンド型乗合タクシーについて

- ・利用者増の具体方策としては、午前中対応の1台の増車、商業施設への停留所設置、年齢制限の緩和等が考えられる。
- ・予約不成立の改善は、システム改善による。
- ・今後5年程度は直近の事業費から大きく変動はない。

○江南市型「一般乗用タクシー」の手法について

- ・当日予約ができない、料金が分かりにくいなどの課題を聞く。
- ・経費的には行政負担は少ないが、利用が集中する時間帯の車両確保が課題。

○小牧市型「定時定路線」の手法について

- ・バス停留所まで遠い、便数に限りがあるなどの不便がある。
- ・小牧市は市民病院に集中させるネットワークであるが、岩倉市の場合は、集中させる市民病院はなく、民間病院など利用が分散する。巡回路線のルート設定は難しい。
- ・デマンド型乗合タクシーの現行の方法が最も効率的ではないか。

(2) 路線バス事業者

○路線の見通し

- ・便ごとの利用状況を確認すると、特定便だけ利用が少ないという偏った便が存在する。
- ・利用者の動向により運転手・車両の資源配分が必要で、合理化・効率化はせざるを得ない。

○丹陽線：九日市場の北島町を經由した岩倉駅までの延長について

- ・稲沢の商業施設（リーフウォーク）から稲沢駅等につなげて欲しいという利用者からの声はある。
- ・他の自治体のように、岩倉市からの要請と下支え（財政支援）が前提であれば、検討することは可能。

○デマンド型乗合タクシーについて

- ・デマンド型乗合タクシーは、事前予約・運行区間の申し出・料金設定など、面倒・分かりにくいという印象がある。

○江南市型「一般乗用タクシー」の手法について

- ・デマンド型乗合タクシーから、江南市型のタクシーへの転換は、理解できる。
- ・転換するためには、地元タクシー事業者の意向次第。
- ・朝の病院利用時に集中し、予約が受けきれない状況が発生している。集中する時間帯の輸送力が確保できるかどうかポイント。

○小牧市型「定時定路線」の手法について

- ・現状のハイエース車両では、現状でも予約不成立が発生している状況から、輸送力が足りないため、小型バスの投入になるだろう。
- ・バス事業への転換は、現状よりも経費が増加する可能性が高い。
- ・コミュニティバス（事業者が名鉄バス以外）の投入は、クリームスキミング・協議運賃設定が問題となる。

(3) タクシー事業者

○デマンド型乗合タクシーについて

- ・デマンド型乗合タクシーの運営は難しいと考えている。
- ・事業改善の対応策としては、予約方法の改善、車両の追加、料金改定、目的地の追加などが考えられる。対応したとしても、抜本的な改善にはならないのではないか。
- ・現状の投入コストが前提であれば、これ以上の利用者増は難しいため他の方法を選択すべき。

○江南市型「一般乗用タクシー」の手法について

- ・江南市型の一般乗用タクシーの活用が最も良いのではないかと。
- ・利用者のサービス面、コスト面から良いと思う。
- ・岩倉市の行政面積は狭いので、ピストン・反復輸送が効率的な運行方法と思われる。
- ・デマンド型乗合タクシーの1日の利用者数30人の利用であれば、午前中に多くの利用が集中したとしても、現状の車両体制でカバーできると思う。
- ・運転手の人材不足問題はあるが、安定した利用があるのであれば、車両配置の見直し等で対応していける。